

令和6年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための授業改善」
 杉戸町教育委員会・杉戸町立高野台小学校

事例1

教科名	国語
単元名	6年 構成を考えて、提案する文章を書こう 「デジタル機器と私たち」
身に付けさせたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を取捨選択、整理する活動や提案書を推敲する際に、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目する力 ・原因と結果など、情報と情報を関連づけて構成を考える力

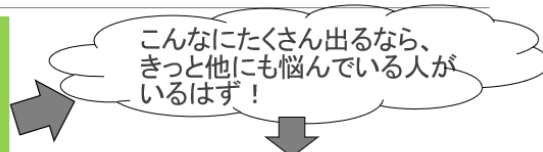
〇工夫

①【学びを自分事とする導入】

単元の導入 〇/9時 学活:デジタル機器について考えよう

〇困ったなと思う場面は

- ・友達になった人の中に怖い人がいた
- ・変なサイトに誘導された。
- ・体調不良につながることがある。
- ・けんかになったことがある。
- ・危険がすぐ近くにあると思う。(詐欺・個人情報の流出)



よりよいデジタル機器の
 使い方を考えて、提案しよう

説得力のある構成を考え、提案する文章を書こう

単元の導入において、学級活動で、デジタル機器について考える時間を設けたことで、自分事として課題を考え学習を始めることができた。

②【児童自ら作成する学習計画】

日	進め方	計画	修正	評価
1	みんな	〇提案書を書くテーマを決め、グループごとに学習計画を立てる。		
2	みんな	〇情報の集め方、提案書の書き方を確認する。		
3		〇情報を出し合う。(事実と体験) 〇必要の情報を集める。		
4		〇解決したり課題も考える。 〇提案した内容と考える。 〇提案と課題が合っているか	十必要の情報を集める。	

児童自ら計画を立てて進める時間においては、計画表に「修正」欄を設けたことで、児童は適宜修正しながら学習に取り組んでいた。

③【思考可視化ツールの活用】

2 提案書作り	題名
1.提案のきっかけ	
初め	
(1)体験情報(事実)	
(2)課題	
2.提案	
中	
具体的な提案内容	
効果	

みんなのボード	提出BOX	ボード1	ボード2	ボード3	ボード4	ボード5
1.提案のきっかけ						
初め						
(1)自分の体験						
情報(事実)調べて分かったこと						
(2)課題						
2.提案						
中						
具体的な提案内容						
3.まとめ(主張)						
提案・呼びかけ						

他の児童の学習状況を自由に見ることができるようにしたことで、児童は参考にしたい児童のカードを見ながら学んだり、必要に応じて直接聞きに行ったりしながら学びを進めることができた。

取り組む段階によってワークシートの色を変えることで、学習状況を捉えやすくした。教師自身のモデルを載せることで、書き方がわからない児童も参考にしながら学習を進めることができた。

事例2

教科名	国語
単元名	4年 理由や例を挙げて、考えを書こう 「もしものときにそなえよう」
身に付けさせたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解する力 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する力

〇工夫

①【相手意識・目的意識の明確化】

テーマ『火山』
 防災BOOKを書く相手『おじいちゃん』
 理由「おじいちゃんのお家は、火山が起きる山の近くにあるから。」

単元のゴールを、「〇〇さんに向けて防災BOOKをつくらう」としたことで、一人一人が明確に相手意識・目的意識をもって学習を進めることができた。

②【児童自ら作成する学習計画】

防災BOOK作り計画表 名前()

時間	計画	修正
3	【A】テーマについて調べる 【B】調べたことを分類・整理する	
4	【C】防災BOOKに書く内容を確認する 【D】自分の意見を書く	
5	【F】「はじめ」の部分の下書き 【E】自分の意見に対する事例や理由を選ぶ	
6	【G】「中」の部分の下書き 【H】「終わり」の部分の下書き	
7	【I】下書きを読み直す 【J】清書を書く	
8	【J】清書を書く 【K】清書を読み直す	
9		
10	防災BOOKを読み合う	

どの学習内容に時間をかけるか自分で考えて計画を立てるようにしたことで、主体的な学習につながる事ができた。

③【学び方を見童が選ぶ】



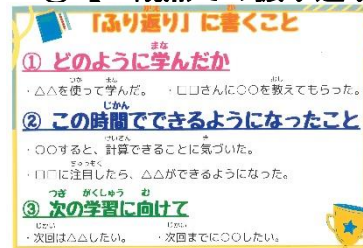
今日の自分のめあてにあった学び方ができるように、自分が今、何の学習をしているのかを毎時間に初めに示し共有したことで、それを参考に学ぶ相手を選ぶ児童の姿も見られた。書く手段も児童自身が選ぶようにしたことで、主体的な学習につながっていた。

④【学習の見取りと適切な言葉かけ】



児童一人一人の学習状況を的確に把握し、適切な助言を行った。児童同士をつなぐ言葉かけやより深い学習へ導く声かけなども行ったことで、協働的な学びも促され、深い学びにもつながっていた。

⑤【3観点での振り返り】



学んだことだけでなく学び方についても振り返り、次時へ向けての課題を把握したり、家庭学習で行って行くことを記述したりすることで、主体的に学習に取り組める児童が増えてきた。